

# 最近の酪農情勢（メモ）

令和 4 年 6 月 17 日  
日本酪農政治連盟

## I 外交交渉

### 1. 日EU・EPA交渉

2018年7月17日：安倍総理はドナルド・トウスク欧州理事会議長及びジャン＝クロード・ユンカー欧州委員会委員長との間で第25回日EU定期首脳協議及び少人数会合を実施し、日EU経済連携協定（EPA）及び戦略的パートナーシップ協定（SPA）に署名したと発表した。

### 2. TPP交渉関連

2018年8月：日米両政府は9日新たな貿易協議（FFR）の初会合をワシントンで開催した。米国側は自由貿易協定（FTA）を念頭に2国間交渉を要求。日本側は環太平洋連携協定（TPP）復帰を「改めて促し、双方の考えの肌たりが改めて浮き彫りになった。

2019年1月：米国を除く環太平洋連携協定（TPP）参加国11か国は、19日、協定の運営を担うTPP委員会の初会合を東京都内で開いた。同委員会は、協定発効後の最高意思決定機関。国内手続きを完了し、60日たった「締約国」が正式メンバー。現時点では、メキシコ、日本、シンガポール、NZ、カナダ、オーストラリア、ベトナムの7か国が該当する。

2021年6月：イギリスがTPP参加交渉開始を発表

2021年9月：中国、台湾が相次いでTPP参加を表明

2021年12月：韓国がTPP加盟手続き開始を表明

### 3. 日米TAG交渉関連

2019年8月：自民党は20日、TPP・日EU・日米TAG等経済連携協定対策本部を開催し、ヤマ場を迎える日米貿易協定交渉への対応を協議した。出席議員からは、環太平洋連携協定（TPP）を超える農産品の市場開放を回避するよう求める意見や、期限ありきの交渉に釘を刺す声が上がった。（フランス南西部ビアリッツで24～26日に開催されるG7サミットに合わせた日米首脳会談で、合意に達するのではないかとの見通しがある）

2019年9月：26日農林水産大臣の談話が発表された。それによると、「本日、安倍総理とトランプ大統領が首脳会談を行い、日米貿易協定の最終合意に至った。農林水産品に係る日本側の関税について、TPPの範囲内とすることができた。我が国の国民の主食であるコメについて、関税削減・撤廃等からの「除外」を確保した。また、脱脂粉乳・バターなど、TPPでTPPワイドの関税枠が設定された品目について、新たな米国枠を一切認めなかった。さらに、牛肉についてTPPと同内容の関税削減とし、2020年のセーフガードの発動規準数量を昨年度の米国からの輸入実績より低い水準とした」などとなった。

### 4. 日英EPA交渉関連

2020年8月：茂木敏充外相と英国のトラス国際貿易相は7日、ロンドンで閣僚協議を行い、日英間の経済連携協定（EPA）の締結に向けて8月末までに大筋合意を目指すことで一致した。

2020年9月：茂木外相は11日、日本と英国の新たな経済連携協定を巡る交渉が大筋合意に達したと発表

## II 令和4年度畜産酪農対策

令和4年度畜産物価格・関連対策については、①補給金及び集乳調整金の単価は、経営意欲、担い手意欲を促す価格となるよう決定すること、②交付対象数量は国内の乳製品の需給状況を考慮し適切に決定すること、③加工原料乳等生産者経営安定対策事業は継続すること、などを要請した。

結果は、補給金単価が10.85円、対象数量は345万トン、所要額は374億円（前年所要額据え置き）となった。尚、集送乳調整金は2.59円/kg、加工原料乳生産者補給金は8.26円/kgとなった。

【指定肉用子牛】	保証基準価格	合理化目標価格
乳用種	164,000円/頭（164,000円）	110,000円/頭（110,000円）
交雑種	274,000円/頭（274,000円）	216,000円/頭（216,000円）

## III 令和4年度政府農林予算 2兆2277億円(対前年比99.7%)で決定（概算要求）

令和3年8月26日の中央委員会の議を経て要請内容を決定、特に本年度は①指定団体機能の維持、②酪農ヘルパー確保、親元就農支援対策、③脱粉、バター過剰在庫対策、④乳用牛預託事業等対策⑤自給飼料対策、⑥家畜排せつ物処理施設等対策、⑦産業獣医師確保対策、⑧自然災害対策、⑨鳥獣被害対策を重点項目とし、要請運動を継続して展開した。これらの要請活動の結果、以下の事業等が政府案として決定した。

### 主な酪農関連対策

- ・畜産経営体生産性向上対策 {8.5億円(8.8)}
- ・環境負荷軽減に向けた酪農経営支援対策（エコ畜事業） {69億円(60)}
- ・国産乳製品需要・消費拡大対策 {61億円(63)}
- ・畜産クラスター事業（機械、施設等整備 R3補正予算） {617億円(431)}
- ・鳥獣被害防止総合対策(R3補正予算) {160億円}

#### ○ALIC事業

- ・酪農経営支援総合対策事業 {45.7億円(45.7)}  
（中小酪農経営の生産基盤強化、育成牛ワクチン補助、乳用牛流通促進等）
- ・酪農ヘルパー関連対策（拡充）  
（酪農ヘルパー待遇改善（最大3万円/月、最長24か月））
- ・堆肥舎等長寿命化推進事業（規模拡大しない場合の堆肥舎の補修） {2.2億(2.2)}
- ・酪農労働力省力化推進等緊急整備対策事業（省力化機器の導入支援） {55億(55)}
- ・ウィズコロナにおける畜産物の需給安定推進事業 {37億}  
（業界の自主的な在庫低減への取組、消費拡大への取組に対する支援）

\*（ ）内の数値は前年金額

#### IV 関東生乳販連 令和4年度飲用向け等乳価は据え置きで合意

関東生乳販連は令和4年度の飲用向け、発酵乳等向け、学乳向け、加工向けの乳価について据え置きとすることで大手メーカーと令和4年1月30日までに合意したと発表した。併せて、酪農情勢の窮状を踏まえ、価格改定の協議に応じるように求めている。

#### V 酪農家戸数 13,900 戸 (R3.2/1 現在 畜産統計. 農水省 7/12 発表) ( ) 内は前年

	酪農家戸数[戸]	乳牛飼養頭数[千頭]	一戸当たり飼養頭数[頭]
全 国	13,900 (14,400) 3.5%減	1,356 (1,352) 0.3%増	97.6 (93.9) 0.3%増
北海道	5,720 (5,840) 2.1%減	830 (820) 1.1%増	145.2 (140.6) 3.2%増
都府県	8,180 (8,540) 4.3%減	526 (531) 0.9%増	64.5 (62.4) 3.3%増

#### VI 配合飼料価格 (配合飼料給与、3.3 t/年・頭→1万円上がれば 33,000 円の負担増)

R1年 1~3月期 500円上げ。4~6月期 850円下げ。7~9月期 400円下げ。10~12月期 650円下げ。R2年 1~3月期 700円上げ。4~6月期 800円下げ。7~9月期 800円下げ。10~12月期 1350円上げ。R3年 1~3月期 3900円上げ。4~6月期 5500円上げ。7~9月期 4700円上げ。10~12月期 1250円下げ。R4年 1~3月期 3900円上げ。4~6月期 4350円上げ。

#### VII 最近の酪政連活動 <<主な活動、下記は一例です。>>

政府・国会 その他	酪政連・関係機関
R3年	R3年
1月 新型コロナウイルス感染者急増に伴い、感染者数増加が著しい都府県を対象とした緊急事態宣言が発令される	4.21 三役会議・中央委員会・坂本哲志大臣講演会
3月 1月に発令された緊急事態宣言が解除される	5.11~12 要請活動 (衆 衆・参議院会館)
4月 大阪、宮城等において感染者が急増し「まん延防止等重点措置」が発令される	5.26 正副委員長会議 (WEB開催) 終了後、衆議院議員開館にて要請活動 (衆 衆議院・参議院会館)
4.25 東京都・京都府・大阪府・兵庫県に3度目となる緊急事態宣言が発令される	6.14~15 要請活動 (於 衆・参議院会館、農林水産省)
5.12 東京都・京都府・大阪府・兵庫県に発令されていた緊急事態宣言が延長となる。また新たに福岡県、愛知県にも発令される	7.20~21 北海道酪農協会要請活動に随行 (農林水産省・衆・参議院会館)
6.15 野党4党より内閣不信任案が提出されたが、与党の反対多数により否決	8.2 農林水産省訪問 森畜産局長へ令和4年度酪農関連対策・予算要請を行う (於 農林水産省)
7.12 新型コロナウイルス感染者急増に伴い、感染者数増加が著しい都府県を対象とした4度目となる緊急事態宣言が発令される。	8.3 正副委員長会議 (WEB開催)
9.3 菅首相が自民党総裁選への不出馬を表明	8.24 農林・食料戦略調査会、農林部会、農政推進協議会合同会議において要請を行う (於 自民党本部)
9.17 自民党総裁選が告示。河野太郎規制改革相、岸田文雄氏、高市早苗氏、野田聖子幹事長代行の4名が立候補	8.26 三役会議、自由民主党酪政会総会 中央委員会 (於 衆議院議員会館)
9.29 自民党総裁選が行われ、岸田文雄氏が第27代自民党総裁に選出された	9.16~17 北海道酪農協会 要請活動 (衆・参議院会館、農林水産省)
10.4 臨時国会が召集され、岸田文雄氏が第100代内閣総理大臣に首班指名される。また、組閣が行われ、金子原二郎氏が農林水産大臣に、武部新、中村裕之氏が副大臣に就任	10.5 農林水産省 森畜産局長へ乳製品在庫解消に関する要請を行う (於 農林水産省)
10.14 臨時国会閉会。衆議院解散	10.17~30 衆議院選挙 推薦候補陣中見舞い (全国各地)
10.17 第49回衆議院選挙公示	11.10~11 北海道酪農協会要請活動に随行 (農林水産省、衆・参議院会館)
	11.16 自民党農林・食料戦略調査会、農林部会の合同会議における団体要請において佐藤委員長より令和4年度税制改正について要請を行う
	11.25 三役会議・自民党酪政会・中央委員会 (於 参議院議員会館)
	11.26 自民党九州酪政会 総会 (於 自民党本部)

<p>10. 31 衆議院選挙投票開票、自民党が小選挙区で189議席、比例代表で72議席 計261議席を獲得「絶対安定多数」を確保 尚、本連盟から推薦した候補者156名中、146名が当選した。</p> <p>11. 10 特別国会が召集。首班指名において岸田首相が第101代内閣総理大臣に指名され、第2次岸田内閣が発足</p>	<p>12. 7 農林・食料戦略調査会、農林部会、農政推進協議会合同会議において要請を行う（於 自民党本部 委員長） 正副委員長会議（於 酪農会館）</p> <p>12. 14 畜産振興議連総会において令和4年度畜産物価格等要請（於 衆・議院議員会館 委員長）</p>
<p>R4年</p>	<p>R4年</p>
<p>2月 新型コロナウイルス(オミクロン株)による感染者が急増し、新規感染者は10万人超/1日を連日記録する。都道府県において「まん延防止等重点措置」が発令される</p>	<p>2. 2 三役会議（於 酪農会館）</p> <p>2. 14 監査会（於 酪農会館）</p> <p>2. 25 国産バターの消費拡大運動（於 衆参議員会館）</p>
<p>2. 24 ロシアはウクライナへ侵攻を開始する。政府はロシアに対して経済制裁を順次発動 自民党は、輸入に依存する飼料や肥料等の価格高騰、海外の食料需要の拡大を踏まえ、食料の自給率や安定供給につながる制度や対策を検討する「食料安全保障に関する検討委員会」を設置し、議論を始める</p>	<p>3. 2 特別要請（於 衆・参議員会館、農林水産省）</p> <p>3. 9 令和4年度通常総会/書面総会（於 酪農会館） 中央常任委員会（於 酪農会館）</p> <p>4. 5 自民党総合農林政策調査会・農林部会合同会議において、配合飼料や輸入粗飼料の価格高騰への対策や肥料の安定供給等について特別要請を行う（於 自民党本部） 公明党農林水産部会において、配合飼料や輸入粗飼料の価格高騰への対策や肥料の安定供給等について特別要請を行う（於 参議院議員会館）</p>
<p>2. 25 農林水産省は、「食料安全保障に関する省内検討チーム」を立ち上げる</p>	<p>4. 6 正副委員長会議、併せて、農水省牛乳乳製品課との意見交換会（於 酪農会館）</p>
<p>3月 岸田首相は、燃油や輸入資材の価格高騰に対する5千億円規模の経済対策を4月末までに取り纏めることを発表</p>	<p>4. 18 九州酪農政治連盟協議会 要請活動（於 農林水産省牛乳乳製品課等と意見交換会、金子原二郎大臣を訪問）</p>
<p>4月 都道府県すべてで「まん延防止等重点措置」が解除される</p>	<p>4. 19 三役会（於 参議院議員会館） 中央委員会（於 自民党本部）</p>
<p>4. 28 政府は「原油価格・物価高騰等総合緊急支援」を閣議決定。総額は1兆5110億円。うち、配合飼料価格安定基金の積み増し435億円、肥料の安定調達・価格高騰への対策として100億円</p>	<p>終了後、各ブロックによる重点要請活動（於 衆参議員会館）</p> <p>5. 10 酪政連東北ブロック協議会 要請活動（於 農林水産省牛乳乳製品課等と意見交換会、財務省・鈴木俊一大臣を訪問）</p>
<p>5. 31 自由民主党は、総合農林政策調査会、食料安全保障に関する検討委員会・農林部会、畜産・酪農対策委員会合同会議を開催し、団体からの要請を受ける</p>	<p>5 25～26 北海道酪農協会 要請活動（於 衆・参議員会館、農林水産省）</p> <p>5. 31 自由民主党の合同会議(左記)において、佐藤委員長、柴田副委員長は飼料・肥料等の資材価格高騰に対する支援を要請（於 自由民主党本部）</p>
<p>5. 31 政府は「新しい資本主義」の実行計画案を提示、農業分野では食料安全保障の強化を目指す</p>	<p>6. 8 三役会、自由民主党酪政会総会、中央委員会（於 衆議院第一議員会館）</p>
<p>6. 14 自由民主党は、総合農林政策調査会、食料安全保障に関する検討委員会・農林部会、畜産・酪農対策委員会合同会議を開催し、畜産緊急対策について了承する</p>	<p>6. 14 自由民主党の合同会議(左記)に幹事長が出席する。さらなる対策の実施を要請する（於 衆議院第二議員会館）</p>

# I 生乳・牛乳・乳製品等の動向

## 1. 生乳受託販売量・用途別処理量〔中央酪農会議、年度・月別〕

〔単位：千トン、(前年同月比%)〕

年度月	合計		北海道		都府県		飲用向け		発酵乳等向		特定乳製品向		生クリーム等向		チーズ向	
	数量	前年同月比%	数量	前年同月比%	数量	前年同月比%	数量	前年同月比%	数量	前年同月比%	数量	前年同月比%	数量	前年同月比%	数量	前年同月比%
31(R1)	6,988.9	100.4%	3,928.3	102.5%	3,060.6	97.8%	3,204.1	97.7%	467.5	100.2%	1,590.7	107.5%	1,313.3	98.3%	401.8	100.2%
R2	7,067.7	101.1%	4,006.9	102.0%	3,060.8	100.0%	3,252.2	101.5%	467.6	100.0%	1,689.2	106.2%	1,246.0	94.9%	411.7	102.5%
R3	7,234.2	102.4%	4,135.6	103.2%	3,098.6	101.2%	3,189.4	98.1%	454.2	97.1%	1,855.7	109.9%	1,297.9	104.2%	435.0	105.7%
R4.4	618.7	101.5%	347.6	102.9%	271.0	99.6%	255.8	98.4%	38.5	98.5%	178.0	105.9%	108.7	104.1%	37.5	98.5%
R4.5	639.5	100.6%	361.8	101.7%	277.6	99.3%	271.4	97.0%	39.5	97.9%	178.5	105.1%	109.9	101.4%	40.0	108.6%

## 2. 生乳生産量・用途別処理量〔農水省、年度・月別〕

〔単位：千トン、(前年同月比%)〕

年度月	飲用牛乳等						処理内容								市乳化率 (B/A)
	合計[A]		北海道		都府県		牛乳等向け				乳製品向け		その他		
							【B】		うち業務用向け						
31(R1)	7,363.2	101.1%	4,092.6	103.3%	3,598.7	108.3%	3,996.9	99.8%	340.5	101.0%	3,321.0	102.8%	44.4	94.8%	54.3%
R2	7,434.8	101.0%	4,159.3	101.6%	3,275.5	91.0%	4,056.2	101.5%	296.8	87.2%	3,354.7	101.0%	44.1	99.4%	54.6%
R3	7,645.6	102.8%	4,311.0	103.6%	3,334.6	101.8%	3,995.9	98.5%	314.7	106.0%	3,599.1	107.3%	49.1	111.3%	52.3%
R4.4	656.9	102.0%	363.7	103.4%	293.2	100.3%	327.7	100.1%	25.9	102.4%	325.5	104.3%	3.7	90.2%	49.9%

## 3. 飲用牛乳等生産量〔農水省、年度・月別〕

〔単位：千ℓ、(前年同月比%)〕

年度月	飲用牛乳等										乳飲料		醗酵乳		乳酸菌飲料	
	合計		牛乳		加工乳・成分調整牛乳											
					合計		加工乳		成分調整牛乳							
31(R1)	3,562.3	100.0%	3,158.1	100.1%	404.2	98.8%	125.0	124.9%	276.9	89.6%	1,137.5	102.1%	1029.6	97.0%	116.4	93.7%
R2	3,636.2	102.1%	3,256.3	103.1%	379.9	94.0%	86.9	143.9%	284.7	102.8%	1,087.7	95.6%	1053.7	102.3%	113.8	97.7%
R4.4	292.3	100.8%	260.8	100.6%	31.4	101.6%	5.4	90.0%	21.1	96.8%	87.0	99.0%	82.0	90.8%	10.2	100.0%

#### 4. バター、脱脂粉乳の生産・在庫状況

R4年4月生産量：バター7.4千トン(前年比105.0%)、脱脂粉乳15.2千トン(前年比107.9%)

■R4年4月末在庫量：バター39.9千トン(前年比101.7%)、脱脂粉乳100.6千トン(前年比119.3%)

ALIC「牛乳・乳製品」

	バター生産(トン)		脱脂粉乳生産(トン)	
	数量	前年比	数量	前年比
R1	65,496	109.7%	130,508	108.7%
R2	70,937	108.3%	140,439	107.6%
R3	75,084	104.9%	159,710	114.0%
R4.4	7,411	105.0%	15,245	107.9%

#### 5. 生乳・生産物・配合飼料価格の推移(前年同月比)

農水省「農作物価指数」

	総合乳価 [円/10kg]		乳廃牛 [円/生体1kg]		子牛(千円/頭)						乳用牛配合飼料 (千円/トン)	
	数量	前年比	数量	前年比	ホル雄		交雑種		ホル雌		数量	前年比
R1	1,046	101.8%	296.4	116.2%	117.7	89.9%	258.2	105.6%	383.4	88.5%	70.0	99.6%
R2	1,056	100.9%	271.2	95.8%	108.9	67.9%	173.7	88.9%	348.7	92.1%	71.5	101.6%
R3	1,046	99.1%	276.7	102.0%	103.3	94.9%	170.9	98.4%	294.3	84.4%	83.5	116.8%
R4.4	1,010	97.8%	249.5	83.2%	101.5	86.4%	170.6	100.7%	258.6	72.2%	91.0	114.0%

1.乳子牛価格について、ホルオスは生後7～10日、ホルメスは生後6カ月程度。F1オスについては、道内11市場における加重平均。

2.配合飼料価格は、小売店頭等での購入価格。

3.( )内は年度平均価格については対前年度比、月平均価格については対前年同月比。

## II 牛肉、子牛価格の動向

1. 4月推定出回り量92千トン(前年比110.9%)、推定期末在庫量126千トン(前年比107.1%) 【単位:千トン(前年同月比%)】ALIC「牛肉需給表」

年度 月	生産量		輸入量		国内生産量の割合	推定出回り量					
						合計		うち輸入量		うち国産品	
31(R1)	329,648	99.0%	616,506	99.5%	34.8%	936,940	100.7%	613,414	102.1%	323,527	98.1%
R2	335,549	101.8%	589,958	95.7%	36.3%	930,161	99.3%	563,112	98.7%	328,165	101.4%
R3	336,114	100.2%	569,137	96.5%	37.1%	886,983	95.4%	559,383	99.3%	327,601	99.8%
R4.4	29,766	102.5%	61,521	111.3%	32.6%	92,576	110.9%	61,963	111.8%	30,613	109.0%

2. 乳子牛(ホルスタイン)価格の推移 <農水省農業物価指数> 【単位:円/頭(前年同月比%)】

農水省「農業物価指数」

	農水省「農業物価指数」												平均
	1月	2月	3月	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	
30	116,000	129,900	148,800	157,600	152,200	145,100	132,200	120,200	108,100	120,400	123,100	116,800	130,867
	142.2%	137.4%	141.6%	140.0%	130.2%	111.6%	111.5%	117.6%	116.1%	118.6%	108.0%	97.8%	121.8%
31(R1)	103,600	109,300	130,700	141,100	134,600	134,500	135,400	115,000	103,000	96,700	99,770	102,000	127,788
	89.3%	84.1%	87.8%	89.5%	88.4%	92.7%	102.4%	95.7%	95.3%	80.3%	81.0%	87.3%	97.6%
R2	98,800	115,000	126,300	115,500	124,400	130,900	121,500	113,500	121,500	85,540	98,620	100,900	112,705
	95.4%	105.2%	96.6%	81.9%	92.4%	97.3%	89.7%	98.7%	118.0%	88.5%	98.8%	98.9%	88.2%
R3	90,920	106,600	114,600	117,500	122,000	134,100	129,900	96,540	88,490	88,760	92,730	94,700	106,403
	92.0%	92.7%	90.7%	101.7%	98.1%	102.4%	106.9%	85.1%	72.8%	103.8%	94.0%	93.9%	94.4%
R4	80,740	95,960	98,890	101,500									
	88.8%	90.0%	86.3%	86.4%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%

■肉用子牛基金: 31年度→乳用種=保証基準価格161,000円、合理化目標価格108,000円、交雑種=同269,000円、同212,000円。但し、令和元年度10月からの消費税増税(8→10)に伴い、乳用種=保証基準価格164,000円、合理化目標価格110,000円、交雑種=同274,000円、同216,000円へ期中改定。

R2年度→乳用種=補償基準価格164,000円、合理化目標価格110,000円、交雑種=同274,000円、同206,000円

R3年度→乳用種=補償基準価格164,000円、合理化目標価格110,000円、交雑種=同274,000円、同216,000円

R4年度→乳用種=補償基準価格164,000円、合理化目標価格110,000円、交雑種=同274,000円、同216,000円

## III 飼料等の動向

【単位:円/トン(前年同月比%)】

農水省「農業物価指数」

	農水省「農業物価指数」											
	1月	2月	3月	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月
30	68,910	68,810	68,840	70,060	70,110	71,340	71,370	71,370	71,420	70,800	70,710	70,700
	102.1%	101.8%	101.9%	103.4%	103.5%	104.2%	105.5%	105.9%	106.0%	105.6%	105.3%	105.3%
R1	70,380	70,350	70,400	69,620	69,590	69,620	69,440	69,410	69,420	70,200	70,310	70,310
	102.1%	102.2%	102.3%	99.4%	99.3%	97.6%	97.3%	97.3%	97.2%	99.2%	99.4%	99.4%
R2	71,180	71,250	71,410	70,470	70,450	70,320	69,840	69,820	69,850	71,330	71,380	71,400
	103.3%	103.5%	103.7%	100.6%	100.5%	98.6%	97.9%	97.8%	97.8%	100.7%	100.9%	101.0%
R3	74,550	74,740	74,740	79,810	79,830	80,220	84,420	84,590	84,540	83,170	83,160	82,960
	104.7%	104.9%	104.7%	113.3%	113.3%	114.1%	120.9%	121.2%	121.0%	116.6%	116.5%	116.2%
R4	86,520	86,630	86,930	91,050								
	116.1%	115.9%	116.3%	114.1%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%

## ■配合飼料販売価格の改定幅と補填の実施状況

【単位:円/トン(補填交付金)】

	1~3月	4~6月	7~9月	10~12月
30	1,500(0)	1,100(300)	1,550(3,450)	▲800(2,300)
R1	500(300)	850(0)	▲400(0)	▲650(150)
R2	700(0)	▲800(0)	▲800(0)	1,350(0)
R3	3,900(3,300)	5,500(9,900)	4,700(12,200)	▲1,250(8,500)
R4	3,900(5,200)	4,350(未定)		

## 穀物需給見通し（米国農務省4月8日発表）

### 1. 世界の穀物需給の概要

(1)小麦・・・世界の生産量は、ロシアや米国の冬小麦の生産量が引き上げられたものの、インドで3月～4月にかけて極端な高温となり単収が引き下げられ、前年度を下回る見通し。世界の消費量は、インドでの飼料用その他の需要が減少し、前年度を下回る見通し。世界の生産量は消費量を下回り、期末在庫は前年度を下回る見通し。なお、ウクライナの生産量は前年度より大きく減少する見通し。

(2)大豆・・・世界の生産量は、ブラジル、アルゼンチン、パラグアイ、米国での増産により、史上最高となる見通し。世界の消費量は、中国の需要増から前年度を上回る見通し。世界の生産量が消費量を上回り、期末在庫量は前年度を上回る見通し。

(3)とうもろこし・・・世界の生産量は、ウクライナでの大幅な減産により前年度を下回る見通し。米国の生産量の見通しは前月から変更なし。世界の消費量は、米国やEUを含めて前年度を下回る見通し。世界の生産量は消費量を下回り、期末在庫量は前年度を下回る見通し。

### 2. 米国の穀物需給情勢（米国農務省）

小麦	生産 4,726万トン 需要 5,130万トン 期末在庫率33.2% 期末在庫1,705万トン(前年度比95.7%)
大豆	生産 1億2,628万トン 需要 1億2,465万トン 期末在庫率6.8% 期末在庫7.61万トン(前年度比106.1%)
トウモロコシ	生産 3億6,730万トン 需要 3億7,009万トン 期末在庫率9.6% 期末在庫3,555万トン(前年度比94.3%)

#### ■シカゴ相場〔ドル/ブッシェル〕

農水省「穀物等の国際価格の動向」

	トウモロコシ	大豆	小麦
2021年2月10日	5.50	13.70	6.40
2021年3月5日	5.60	14.30	6.50
2021年4月1日	5.60	14.00	6.10
2021年5月14日	7.70	16.20	7.70
2021年6月4日	6.80	15.80	6.90
2021年7月1日	7.00	17.70	6.50
2021年8月6日	5.60	17.70	7.20
2021年9月10日	5.10	12.80	7.10
2021年10月10日	5.40	12.50	7.60
2021年11月10日	5.50	11.90	7.70
2021年12月3日	5.90	12.70	7.90
2022年1月7日	6.10	14.00	7.60
2022年2月4日	6.20	15.50	7.60
2022年3月7日	7.60	16.80	13.50
2022年4月4日	7.40	15.80	9.80
2022年5月6日	7.90	16.60	11.00
2022年6月3日	7.30	17.70	10.40

#### ■為替相場〔東京、円/ドル〕

	対ドル 円相場
2021年2月18日	105.88
2021年3月19日	109.03
2021年4月15日	108.76
2021年5月14日	109.37
2021年6月4日	109.49
2021年7月15日	109.49
2021年8月6日	110.89
2021年9月20日	109.47
2021年10月15日	114.05
2021年11月17日	114.89
2021年12月20日	113.38
2022年1月18日	114.95
2022年2月18日	114.02
2022年3月18日	118.74
2022年4月12日	125.35
2022年5月16日	128.96
2022年6月10日	134.48

#### ■海上運賃〔米ガルフ→日本、穀物、パナマックス(5～8万トン級)、ドル/トン〕

【R1年平均48.74、R2年平均45.12、R3年平均65.57】

R1年11月平均=48.64 12月平均=50.11 R2年1月平均=52.35 2月平均=48.22 3月平均=46.58 4月平均=41.11 5月平均=40.21 6月平均=43.10 7月平均=49.97 8月平均=51.96 9月平均=48.69 10月平均=49.63 11月平均=48.84 12月平均=50.78 R3年1月平均=52.73 2月平均=53.91 3月平均=56.35 4月平均=54.91 5月平均=62.21 6月平均=63.26 7月平均=79.96 8月平均=74.74 9月平均=76.52 10月平均=79.09 11月平均=66.72 12月平均=66.51 R4年1月平均=60.84 2月平均=59.61 3月=70.42 4月平均=73.12 5月平均=76.87 6月平均=76.57